



県・有形文化財 美術工芸品（彫刻）

もく ぞう あ み だ にょらい りつ ぞう
木造阿弥陀如来立像

魚津市金山谷（金山谷地区）

檜の一木造りで、簡素な手法で彫刻された平安時代後期の作と考えられる。身の丈52cmの典型的な来迎仏の形をもつ阿弥陀如来立像で、全体が黒ずんでおり、頭部に螺髪（もはつ）の彫り出しがなく、眉間の白毫（びやくごう）もない。眼は彫眼で鼻及び口元は非常に小さい。衲衣（のうえ）及び袈裟（けさ）の衣文の彫法も浅く簡にして要を得た佳作であるが、両手及び両足先は後の補修とみられる。

彫法は本格的で地方に類例のないものであり、当時の美術水準を示す代表作として貴重である。

この仏像は、大正4年に京都の仏師・田中文弥から買い求めたもので、その際蓮台座（れんたいざ）と光背（こうはい）は浄土真宗大谷派所定の様式により、新しく作られたものである。この間の経緯は、蓮台座銘に記されている。

金山谷地内の浄土真宗光開寺に安置されていたが、現在は金山谷郷土文化保存伝習館に保管されている。